事務事業 事後評価シート（令和7年度実施事業）

事務事業名	地域文化振興事業					事業通番	5506
						開始年度	令和3年度
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり		終了年度	--
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興		担当課名	生涯学習課
予算科目	会計	一般会計	款	教育費		担当係名	文化係
	項	社会教育費	目	文化振興費		重点プロジェクト	

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化芸術振興基本法
事務事業の概要	本町の伝統・芸術文化の振興を図るため、補助金交付を通じて各種文化団体の活動支援を行う。複合文化施設を町民の芸術文化活動の拠点・交流の場として位置づけ、芸術文化振興事業により、町の文化芸術の更なる振興を図る。
対象（誰、何を）	町民の芸術文化振興に寄与すると認められた文化団体
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	各団体活動を通して、芸術文化の振興を図る。
成果の考え方	文化団体を支援することにより、本町の芸術文化の振興が図られている。

【成果指標】		単位
A	補助金が交付される団体数	団体
B	文化団体協議会加盟団体数	団体

2．事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度(決算)
事業費(千円)	969	1,939	2,182	2,557	2,200
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	363	312	991	1,261	814
一般財源	606	1,627	1,191	1,296	1,386

（2）指標の推移

上段：目標値　下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2	2	2	2	2
	1	2	2	2	2
B	52	52	52	52	52
	49	49	45	40	38

（3）活動実績及び成果

活動実績	芸術文化活動等を行う２つの団体に対し、生涯学習振興事業補助金560,087円を交付した。 モデトロ・サクソフォン・アンサンブル コンサートを開催し、音楽による芸術文化に触れる機会を創出した。 （コンサート来場者：町民等140人、アクティビティ：町内中学生99名）
成果	生涯学習振興事業補助金を交付し、団体活動を支援することにより、町総合美術展、ジュニア文芸表彰式を開催することができた。また、公共ホール音楽活性化事業の実施により、本町の芸術文化の振興に繋げることができた。

3．最終評価

成果の方向性	現状維持	（理由） 芸術文化活動団体への支援と芸術文化に触れる機会の創出により、芸術文化の振興を図る。
コストの方向性	現状維持	（理由） コンサート関連事業等の開催については助成金等を活用し経費の節減を図る。 また、生涯学習振興事業補助金の交付については、内容を精査し適正な支出に努める。
今後の方向性	現状維持	（理由） 町民の芸術文化活動に対する支援により、町民の芸術文化に親しむ機会を創出し、芸術文化の振興を図る。

事務事業 事後評価シート（令和7年度実施事業）

事務事業名	遺跡調査・整備事業					事業通番	16760
						開始年度	令和3年度
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり		終了年度	--
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興		担当課名	生涯学習課
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法、福島県文化財保護条例、会津美里町文化財保護条例、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、会津美里町区域内開発に係る埋蔵文化財保護事前協議要綱
事務事業の概要	町の埋蔵文化財を適切に管理し、保存や公開に努める。また、全国有数の重要な中世山城跡である向羽黒山城跡を保存し、永く後世へ伝えるため、これまで実施した調査整備事業の成果を踏まえ、「向羽黒山城保存活用計画」の策定を進める。
対象（誰、何を）	①向羽黒山城跡への来場者 ②開発等の対象となる遺跡地
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①向羽黒山城跡が整備・管理されることで、関心をもって城を訪れる方が増加する。 ②遺跡の記録が保存され、遺跡地の情報が蓄積される。
成果の考え方	①向羽黒山城跡を広く周知するために、城に関する事業への参加者数と整備資料室への来場者数を指標とする。 ②開発事業等に伴う遺跡地の照会件数を指標とする。

【成果指標】		単位
A	向羽黒山城跡事業等に関わりのあった方の人数	人
B	遺跡地の照会件数	件

2．事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度(決算)
事業費(千円)	4,030	3,758	568	3,347	6,325
国庫支出金	1,632	3,000		1,000	1,000
県支出金					
地方債					
その他				317	
一般財源	2,398	758	568	2,030	5,325

（2）指標の推移

上段：目標値　下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	500	1,000	1,200	1,300	1,400
	1,039	1,266	1,292	1,854	1,801
B	30	50	50	50	50
	64	40	38	58	51

（3）活動実績及び成果

活動実績	・「向羽黒山城跡保存活用計画」の作成を進めた。 ・向羽黒山城跡を訪れる方々が見学する際に、城の痕跡や残存地形を分かりやすく見せるために、下草刈りや枝払い等を行い、城跡の環境整備を図った。 ・埋蔵文化財包蔵地内における町道改良工事に伴い、発掘調査を実施した。 ・埋蔵文化財保護のため、埋蔵文化財包蔵地内における開発事業等の計画に伴う照会事案について対応した。
成果	・向羽黒山城跡保存活用計画の策定作業を、国及び県、策定委員会の指導助言を得ながら進めた。 ・向羽黒山城跡の環境整備を実施したことで、城の痕跡や残存地形が明らかとなり、多くの方々に城の壮大さを実感していただくことができた。 ・町道改良工事に伴う発掘調査は予定通り進めることができた。

3．最終評価

成果の方向性	拡充	（理由） より多くの住民が歴史的価値を享受できる環境を整備するため、活用事業の規模や周知方法を拡充し、郷土愛の醸成と地域活性化に貢献していく。
コストの方向性	現状維持	（理由） 現行の予算枠組みの中で、優先順位の再検討、補助金等の活用の検討など創意工夫を凝らすことで、実質的な成果の拡大が可能である。
今後の方向性	生産性改善	（理由） 従来の調査・整備手法を抜本的に見直し、最適化を図りながら遺跡の価値を最大限に活用し、地域の活性化や教育効果をさらに広げる必要がある。

事務事業 事後評価シート（令和7年度実施事業）

事務事業名	文化財保存・活用事業					事業通番	16761
						開始年度	令和3年度
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり		終了年度	--
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興		担当課名	生涯学習課
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・文化振興基本法・会津美里町歴史文化基本構想
事務事業の概要	町の歴史文化を後世に継承するため、文化財の調査及び保存、活用事業の実施、郷土資料館の運営、向羽黒山城跡保存活用計画策定、町民の歴史文化継承活動の支援等を行う。 【主な取組】令和６年度に引き続き、向羽黒山城跡保存活用計画策定業務を委託し、向羽黒山城跡の今後の保存及び活用の方法を十分に検討し、計画を策定する。
対象（誰、何を）	町内外の人々
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	町民が、町の文化財や郷土資料を通じ、地域の歴史文化への関心及び文化財保護や活用の重要性を認識し、自分たちの地域に対する愛着や誇りを持つ機会を創出するとともに町民でない人にも郷土資料館や文化財を訪れることを通じて、理解を深めてもらう機会を創出する。
成果の考え方	講演会や郷土資料館への来館等により町民が地域の文化財や郷土資料に触れる機会をどの程度創出することができたのかを成果指標とする。

【成果指標】		単位
A	イベントや郷土資料館への来館などにより町の歴史文化に親しむ機会を持った町民の数	人
B	町民向けの文化財保護及び活用に関する周知の場を創出した件数	件

2．事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度(決算)
事業費(千円)	161,519	170,461	28,129	23,619	18,337
国庫支出金					
県支出金		5,693	3,643	460	
地方債	128,800	148,600	0	3,300	
その他	27,500	7,800	73	5,169	4,294
一般財源	5,219	8,368	24,413	14,690	14,043

（2）指標の推移

上段：目標値　下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	1,250	1,250	1,300	1,400	1,400
	1,180	1,758	2,600	3,214	3,437
B	5	5	7	9	9
	5	7	7	17	22

（3）活動実績及び成果

活動実績	・郷土資料館の運営を行い、1172名が来館した。 ・常設展示の展示替えを行った。 ・資料館イベントを10回開催したほか、終戦80年特別展示を開催した。
成果	・定期的なイベントや特別展示の開催により来館者が増加し、資料館の来館者数及びイベント参加者数の定量目標を達成することができた。

3．最終評価

成果の方向性	拡充	（理由） 郷土資料館の積極的な情報発信と収蔵物を活用した体験型事業の実施、更には人気のある企画展の継続的な開催などにより入館者の増加につなげる。
コストの方向性	現状維持	（理由） 企画展やイベントの飾り物を職員自ら作成したもので対応するなど、経費の削減に努めていく。 展示物などは、よりインパクトある見せ方にするなど工夫をし、限られた予算の範囲で最大限魅力ある資料館になるよう努める。
今後の方向性	生産性改善	（理由） 郷土資料館で開催される企画展やイベントの見直しや更なる周知に努め、情報収集・調査研究に積極的に取り組み、歴史と文化の拠点として適正な運営に努める。